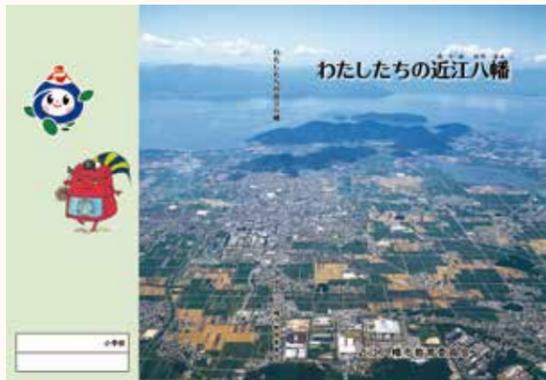




### 05 親の学習機会や相談体制の充実

保護者が安心して子育てや教育ができるよう、親の学習機会と親同士がつながる場など家庭教育環境を支援します。学校や家庭、地域、行政がそれぞれの役割を發揮し、子どもの学びや成長を支え合う環境づくりを進めます。子育てサロンを開催し、安心して子育てができるよう取り組みます。また、家庭教育支援チームを組織し、悩みのある保護者の早期発見・対応をするとともに、必要に応じて専門機関などとの連携を行います。



### 03 「ふるさと学習」の一層の推進

地域の人や文化に触れるふるさと学習や体験学習などを見直し、深化させ、子どもたちが主体的に取り組むことで豊かな人間性や社会性を育みます。  
また学校では、昨年度改訂した小学校社会科副読本「わたしたちの近江八幡」を積極的に活用することや、地域を題材とした教材を学習に取り入れることで、ふるさとの魅力に気づき愛着心を育みます。



### 01 早寝・早起き・あき・し・ど・う運動の強化

本市の小・中学生は、昨年度実施したアンケートや全国学力・学習状況調査によると、ゲームや携帯電話・パソコンを利用する時間が増加し、一日のうち「ほとんど本を読まない」と答えた子どもが約4割いることが明らかになりました。  
今年度は「ど」（読書）に重点を置き、読書環境を充実させ、子どもたちが本に親しむ機会を大切にします。また、家庭と連携して「家読<sup>うちどく</sup>」に取り組みます。

## 6つの基本方針



### 06 就学前施設と小学校 小学校と中学校の なめらかな接続の推進

近年、数値では測れない「意欲」「自尊感情」「主体性」「やり抜く力」「共感性」「協調性」「協働性」などの非認知能力を幼児期から育てることの重要性が指摘されています。生涯にわたる人格形成の基礎を培うため、就学前教育・保育や家庭教育、地域を含めた幼児期の教育の充実が求められています。

子どもたちが小学校や中学校に進学しても、生き生きと学校生活を送れるように、学校・園所の教職員間の連携や交流を充実させていきます。



### 04 機能的かつ機動的な 生徒指導・相談体制の充実

近年、不登校児童生徒が小・中学校で増えています。不登校の背景にはさまざまな要因がありますが、学校園での互いの個性を認め合い支え合える集団や仲間づくりにより、誰もが安心して学校生活を送れるようにする必要があります。

教育委員会では、不登校やひきこもりなどへの相談活動や支援体制の充実を図ります。また、いじめ・問題行動に組織的に対応できるように、学校の指導体制の強化に努めます。



### 02 「学ぶ力」の向上

学校では、学習指導要領のもと、1人1台タブレット端末などを活用し、子どもたちが「できた」「わかった」を実感できる授業にするため、学校での指導方法の工夫・改善に努めます。  
そして、質の高い学びを実現することで、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続ける「学ぶ力」の向上を目指します。

国際化・情報化・科学技術の発展などにより、これからは一層複雑で予測困難な社会になります。子どもたちには、環境の変化に柔軟に対応し多様な人と協働しながら、自らが学び考え、課題を発見し、解決していく力「生き抜く力」を育成していきます。  
誰一人取り残さない、すべての子どもたちの豊かな学びや育ちのために、教育委員会（行政）・学校園・家庭・地域の4者がそれぞれつながり合い、力を出し役割を果たすことが重要と考え、今年度の教育委員会スローガンを「つながる未来」としました。組織と組織、人と人がつながり、互いの理解と協働により、本市の教育を推進します。

近江八幡市教育長  
大喜多悦子

